

施策評価調書の概要

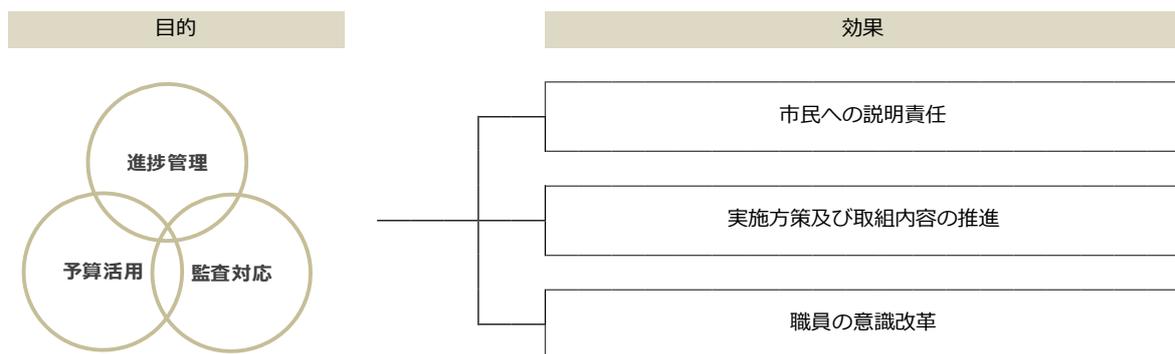
1 目的

上下水道局（以下「局」という。）では、これまで「みやざき水ビジョン 2010」に掲げた業務指標の進捗状況の把握は行ってきましたが、各課が掲げた取組内容や主要事業に対する一元的な管理は実施していませんでした。

しかしながら、近年の厳しい事業環境に柔軟に対応しつつ施策の質を高めていくには、毎年の進捗状況を把握・分析することが必要であり、そのためには、事業の検証に一定の基準や評価制度を設け、予算編成まで繋げることが重要だと考えられます。

このことから、「みやざき水ビジョン2020（以下「水ビジョン2020」という。）」（R2～R11）に掲げた実施方策及び取組内容を着実に実行しながら、毎年度各課が施策の分析（新たな課題の抽出や事業の見直しなど）を行い、その進捗と成果を確認するとともに、予算編成への活用などを通して新たな施策の構築や継続的な改善を図るための手段として「施策評価調書」を導入し、PDCA サイクルに基づいた計画の管理を行います。

また、「施策評価調書」は、「宮崎市上下水道局 経営戦略（以下「経営戦略」という。）」（R1～R11）と一体的な進捗管理を行うことで、投資・財政計画に基づく計画的で健全な事業の推進を目指します。



2 期待される効果

（1）市民への説明責任

施策評価に対する客観性や公平性を担保するため、宮崎市上下水道事業経営審議会（以下「経営審議会」という。）による外部評価を実施し、各施策が効果的・効率的に実施されているかを公表することで、事業の透明性の確保に努めるとともに、市民への説明責任を果たします。

（2）実施方策及び取組内容の推進

各施策への取組の手法や要求する予算が適正なのか、事業の振り返りや施策評価の結果を予算編成に反映するなど、新たな方法を模索できるツールとして施策評価調書を活用することで、各施策の効果的・効率的な推進に繋がります。

（3）職員の意識改革

【資料5】

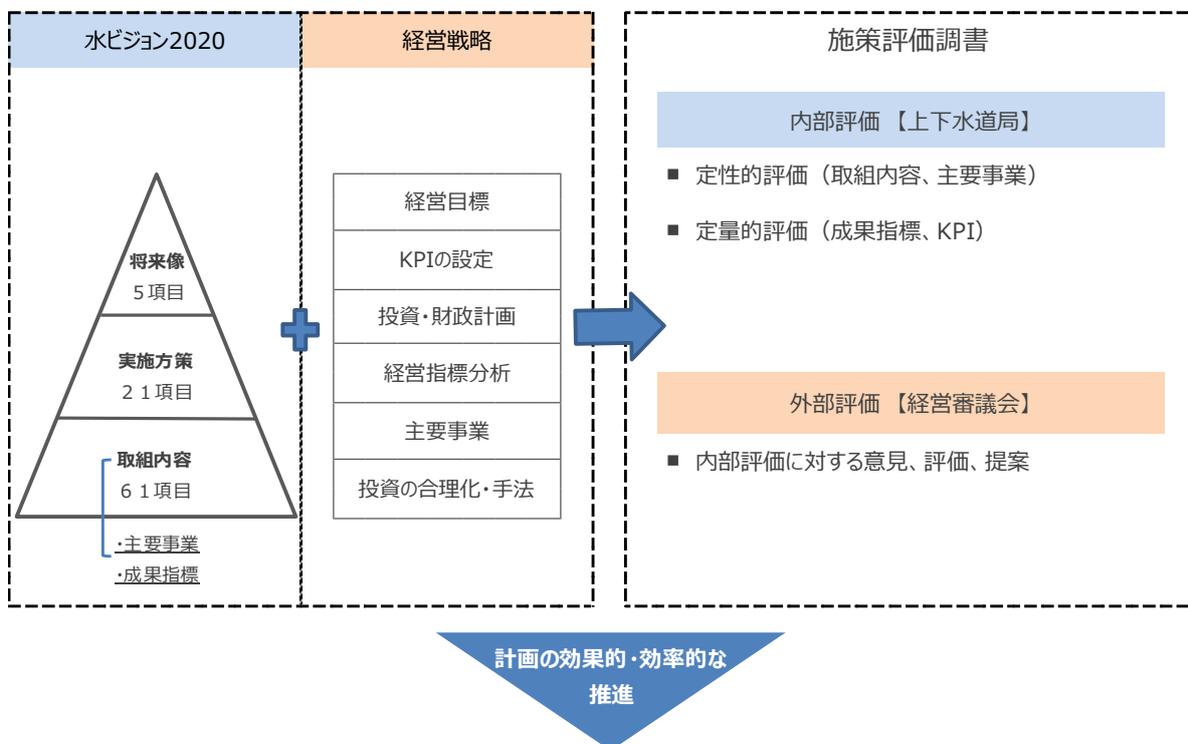
施策評価の継続的な実施を通して得られる知見を組織が学習・蓄積していくことで、社会経済情勢の変化に対して臨機応変に優先事業へ対応できる組織づくりに貢献するとともに、組織横断的な作業や外部評価を通して情報の共有化を図り、各取組に対する姿勢やコスト意識が醸成されることによって、職員の意識改革を促進します。

3 施策体系と評価方針

水ビジョン2020は、今後10年間の上下水道事業の大きな方向性や目標を示す局の最上位計画であり、基本理念である「みやざきを支え、信頼を未来へつなぐ上下水道」を達成するために掲げた5項目の「将来像」、21項目の「実施方策」及び61項目の「取組内容」を体系化し、併せて主要事業や成果指標を掲げています。一方、経営戦略は、水ビジョン2020を実現するための経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図る内容を示し、経営目標やKPI（重要業績評価指標）、投資・財政計画を掲載しています。

評価方針としては、取組内容や付随する主要事業の進捗状況の定性的評価を行います。併せて、成果指標の達成度などの定量的評価も施策評価へ反映することで、取組内容、主要事業及び成果指標の進捗状況を把握し、計画の効果的・効率的な推進を図ります。最終的には、宮崎市上下水道局経営会議の評価者が各取組内容の評価結果を勘案し、実施方策ごとに内部評価を決定します。

また、内部評価後は、施策評価に対する客観性や公平性を担保するため、経営審議会による外部評価を実施することにより、各施策の実効性を高めます。

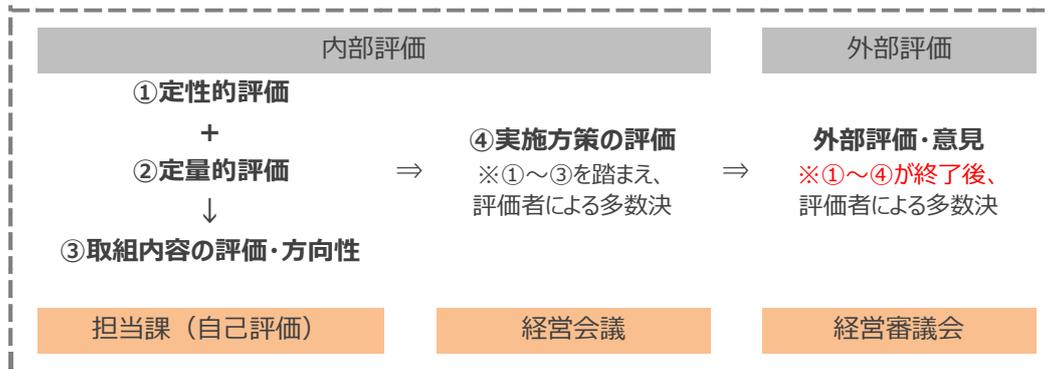


基本理念「みやざきを支え、信頼を未来へつなぐ上下水道」の実現

4 評価方法と基準

局の全ての施策は水ビジョン 2020 に基づいて実施されており、各課が掲げた施策の進捗状況を評価しながら、新たな課題や施策の見直しの必要性を明らかにしていきます。

【評価の全体像とフロー】



(1) 内部評価（局の評価）

①【定性的評価】

所管課（主担当課、関係課）により、取組内容の主な成果や新たな課題などを含めた施策展開等の記述による定性的評価と、主要事業の事業費の実績を記載します。

※複数の事業を抱える取組内容については、主な取組内容の成果のみを記載

《イメージ》

取組内容	主な成果と新たな課題	【定性的評価】			
		主要事業（参考）			
		事業名【計画期間（年度）】	総事業費	R3実績	累計実績 (千円)
1 施設の更新	【記載する項目と基準】 ① 主な取組の成果 ② 新たな課題等 ※当初予算の予算要求の概要や中期財政ローリングに記載した主要事業または取組を記載	下北方浄水場大規模改修事業【R1-R11】	約4.2億円	〇〇	〇〇
		柏田水源池更新事業【R2-R11】	約3.0億円	〇〇	〇〇
		下北方配水池整備事業【R5-R9】	約9億円	〇〇	〇〇
2 経年管の更新	① 経年管更新事業計画に基づき、旧宮崎市〇km、旧町〇kmを整備。 また、新たに懸案事項である拠点医療施設〇〇への供給ルートを、予定していたR〇年より早く着手した。 ② 次年度以降、漏水事故が多発している〇〇幹線への対応が早急に必要。	経年管更新事業【R1-R11】	約6.7億円	〇〇	〇〇
		生目台送水管更新事業【R1-R11】	約5.9億円	〇〇	〇〇

②【定量的評価】

各取組内容において設定した成果指標及び KPI の目標達成度を評価します。

毎年度の目標値に対する達成度を算出し、取組内容に掲げた各指標の平均達成度を評価基準として示します。

区分	考え方	平均達成度
◎	十分な成果を認める	達成度100%以上
○	概ね、成果を認める	達成度80%以上100%未満
△	一部、手法や取組の見直しが必要	達成度80%未満

$$\text{達成度 (\%)} = \frac{\text{実績}}{\text{目標}} \times 100$$

※減少を目標とする指標については、分母と分子を入れ替える。

《イメージ》

取組内容		【定量的評価】							
		指標							
		指標名	KPI	ビジョン	単位	目標	実績	達成度	評価
1	施設の更新	配水池貯留能力		○	日	0.91	0.74	81%	△
		主要な電気・機械設備の耐用年数超過率		○	%	64.6	82.5	78%	
2	経年管の更新	独自の経年化管路率	○	○	%	64.6	64.2	100%	◎
		経年化管路率		○	%	64.6	62.4	103%	

③【取組内容の評価と区分】

所管課（主担当課、関係課）が取組内容に関する定性的評価及び定量的評価の双方を勘案して、施策評価を分析した上で次年度以降の取組方針を示します。

また、経営戦略に掲げた投資・財政計画を実効性の高いものとするため、施策評価で示された取組内容の評価結果を投資・財政計画ローリング時のヒアリングや予算編成に活用します。

区分	今後の取組方針
拡充（新規）	目標を上方修正、取組内容を拡充
現状維持	現在の取組内容や手法を継続
縮小	目標を下方修正、取組内容又は手法の見直し
中止（廃止）	目標や取組内容の妥当性がなくなった又は目的を達成した

《イメージ》

取組内容		取組内容の評価
		今後の方向性や特記事項
1	施設の更新	現状維持
		【記載する項目と基準】 ①次年度以降の取組内容の方向性 ②新たな取り組みや変更した手法など ③取組内容に関わる根拠法令の変更情報（補助金制度の変更など）
2	経年管の更新	拡充（新規）
		①R4年度以降も経年管更新事業計画に基づき、宮崎市全域で約〇kmを更新する予定。 ②経年管更新については、アセットマネジメントの手法を用いた本市独自の耐用年数基準をR〇年度に変更することから、更新事業費が大幅に〇〇となり取組が〇〇であることから、成果指標である経年化管路率のR11目標値を〇〇に上方修正する。 ③補助率の基準が〇〇に変更されたことに伴い、R〇年度以降の国庫補助金が増額となる見通し。

④【実施方策の評価と区分】

各取組内容の評価を踏まえ、実施方策を評価します。

内部評価の決定方法については、局内の意思決定機関である「宮崎市上下水道局経営会議」に属する各委員の評価結果を基に、経営会議で内部評価を決定します。

評価の際には、実施方策の総括として、重点的に実施した取組内容や大幅な事業計画の変更などを記載し、必要に応じて各取組内容の評価修正等を行い、次年度の取組に反映します。

区分	評価内容
A	十分な成果を認める
B	概ね、成果を認める
C	一部、取組内容や手法の改善が必要
D	取組内容や手法の抜本的な見直しが必要

(2) 外部評価（経営審議会の評価）

【資料5】

経営審議会によって、社会情勢による影響等も勘案しながら、各施策の進捗状況や内部評価に対する評価・意見を行い、必要に応じて次年度の施策に反映します。

評価の決定方法については、委員全員の評価結果を集計した結果、一番多い評価を外部評価とします。

また、施策評価の結果をホームページへ掲載し、水ビジョン2020及び経営戦略の進捗状況を公表することで、市民への説明責任を果たします。

区分	評価内容
A	十分な成果を認める
B	概ね、成果を認める
C	一部、取組内容や手法の改善が必要
D	取組内容や手法の抜本的な見直しが必要

《イメージ》

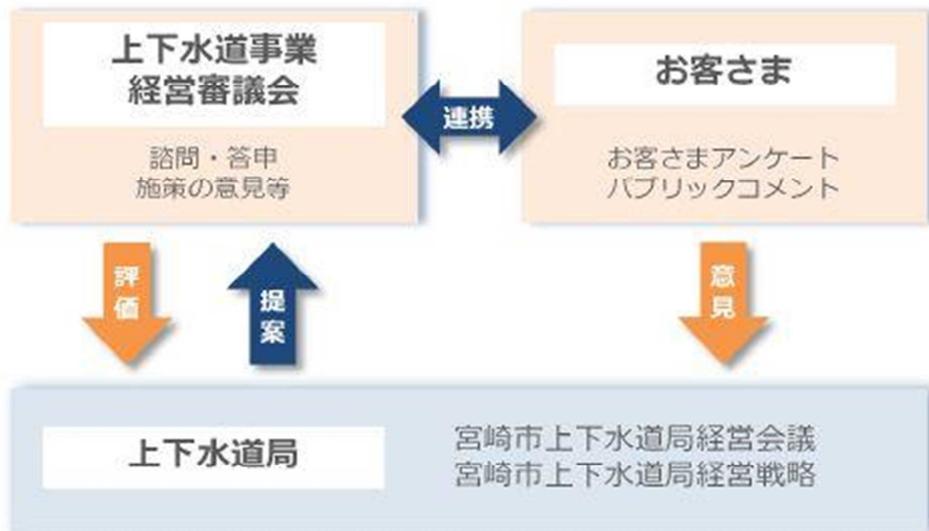
施策評価調査【みやざき水ビジョン2020・宮崎市上下水道局経営戦略】（評価対象年度：令和〇年度）

施策体系	実施方針	内部評価	内部評価の総括
I-2	水道施設の更新・耐震化	B	22222222222222

取組の方針	外部評価	上下水道事業経営審議会の意見
1111111111	B	3333333333

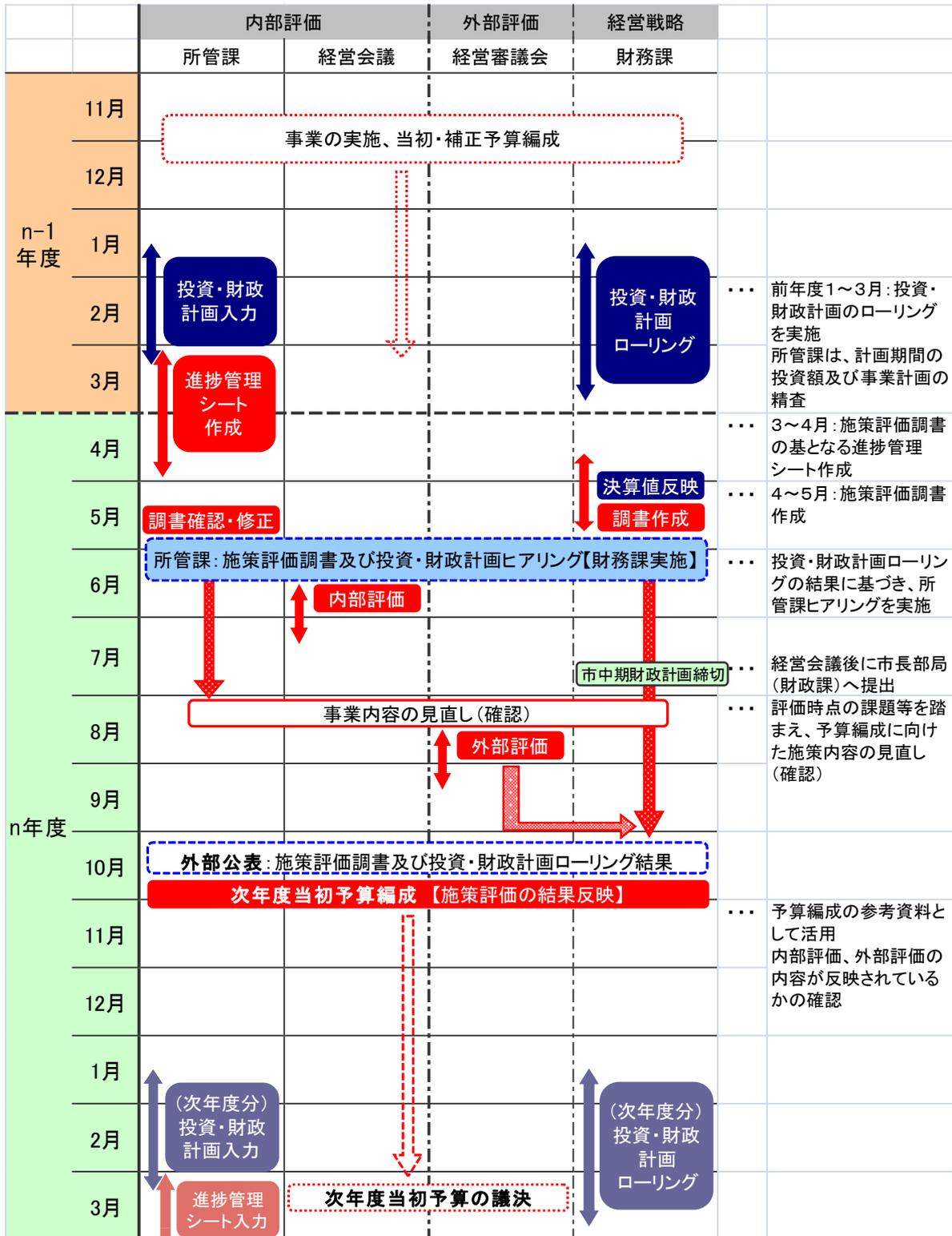
取組内容	【定性的評価】					【定量的評価】								取組内容の評価 今後の方向性や特記事項
	主な成果と 新たな課題	主要事業（参考）				指標								
		事業名【計画期間】	総事業費	R〇実績	累計実績	指標名	KPI	（ビジョン）	単位	目標	実績	達成度	評価	
1 施設の更新	111111111111111111111111	a事業	〇億円	〇〇	〇〇	11111		〇	日	〇〇	〇〇	〇〇	〇	拡充 111111111111
2 経年管の更新	22222222222222222222	b事業	〇億円	〇〇	〇〇	22222222	〇	〇	%	〇〇	〇〇	〇〇	〇	現状維持 222222222222
3 連絡官の整備	33333333333333333333													縮小 33333333
4 施設の耐震化	44444444444444444444	d事業	〇億円	〇〇	〇〇	4444444		〇	%	〇〇	〇〇	〇〇	△	中止（廃止） 444444444444
5 管路の耐震化	55555555555555555555	e事業	〇億円	〇〇	〇〇	55555	〇	〇	%	〇〇	〇〇	〇〇	◎	拡充 5555555555555555

※水ビジョン2020 第6章 進捗管理（86頁）から引用



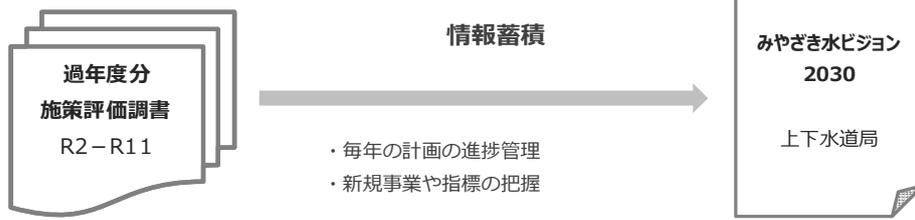
5 施策評価調書の実施スケジュール

令和3年度を試行期間とし、試行期間終了後は、必要に応じて調書様式の修正等を行いながら制度の定着を図ります。



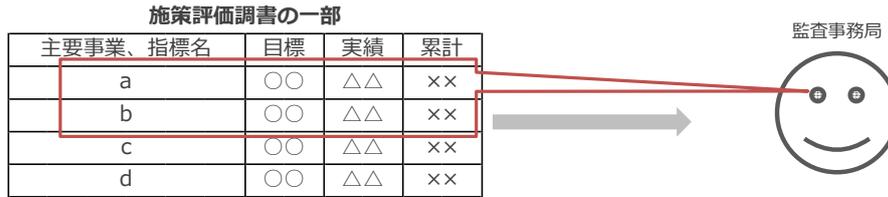
6 施策評価調書の業務活用イメージ

活用事例①：「計画の進捗管理と次期計画への活用」



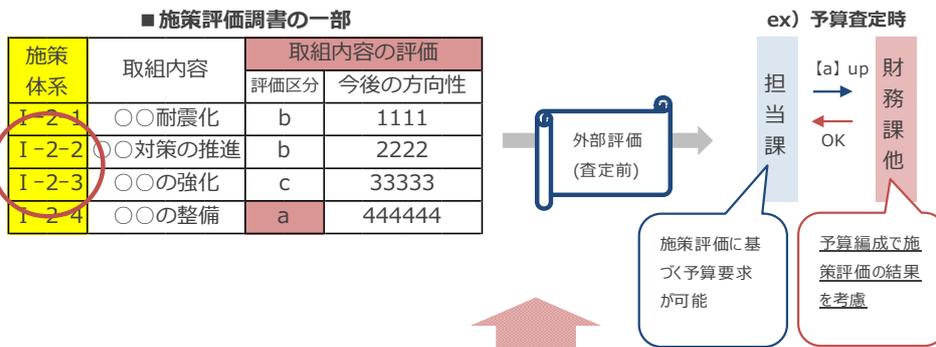
- ・ 計画の一貫性の保持
- ・ 計画策定時、各課の作業負担の減少

活用事例②：「監査対応」



- ・ 監査への提出書類を施策評価調査で代用
(これまで毎年各課へ作業依頼していた。)

活用事例③：「予算活用」



- ・ 内部評価後の客観的な予算査定の実施
- ・ 効果的な事業推進に貢献
- ・ 選択と集中

参考

■ 予算要求の概要の一部【イメージ】

1 要求の概要				2 上記増減の主な項目	
	R5	R4	増減額		
3条	10	5	5	・〇〇事業の拡充	
4条	25	20	5	・〇〇事業の1111	
3 主要事業又は特記事項					
施策体系	事業名	要求額	備考		
I-2-1	〇〇事業	〇千万	111111		
I-2-2	〇〇事業	〇億円	222222		

■ 投資・財政計画のヒアリング資料【イメージ】

1 ローリングの主な増減項目 (〇〇事業)								
施策体系	事業名	RO	RO	RO	RO	RO	増減理由	
I-2-1	〇〇事業	10	12	13	11	9	10	11111
I-2-2	〇〇事業	5	8	7	8	4	5	22222

活用事例④：「組織内の情報共有と外部評価のフィードバック」

